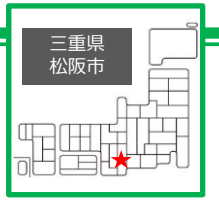
9 社会福祉法人まつさか福祉会 多機能型事業所　八重田ファーム

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可

優秀賞



ハウスでのいちご栽培を中心とした農作業を通年で実施。県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。高品質ないちごを生産することで、県農業の担い手として期待。

基本情報

- 所在地：三重県松阪市
- 団体名：社会福祉法人 まつさか福祉会
- 選定表彰：－
- 主力商品：いちご（ASIA GAP認証）
- 取得認証等：ASIA GAP認証

ASIA GAP
認証登録証明書

取組の概要

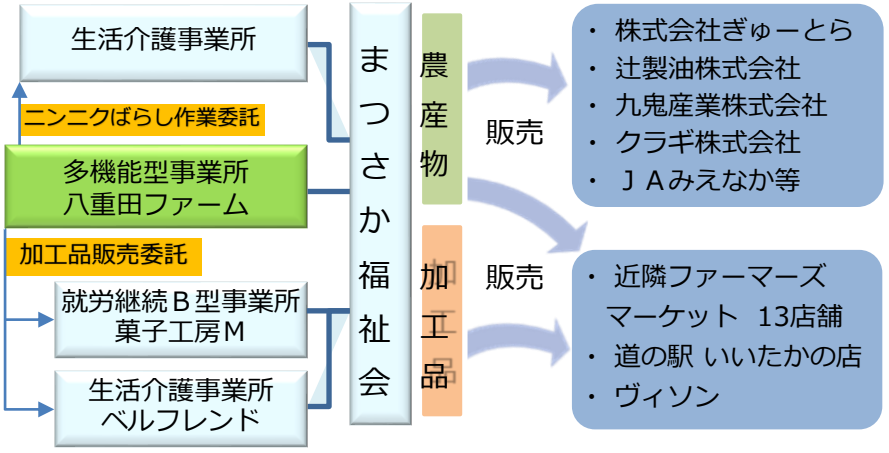
○ 知的障害者、精神障害者の16名で農作業・加工作業に取り組む。
○ ハウス35aでいちごを生産。約２.5haの露地でナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等を生産。いちごジャム等への加工にも取り組む。
○ 離農した農業者から借り受けたいちごハウスに、平成25年度「『農』のある暮らしづくり交付金」(農林水産省)の補助を受け、高設栽培システムを導入し、持続力がない障害者が作業しやすくしている。
○ 農薬散布のため、虫の写真などをハウス内に貼ることで、利用者に害虫について知ってもらうとともに、品質管理への意識向上を図っている。

主力のASIA GAP認証いちご

ナバナの収穫作業

いちごの収穫作業

体制図



取組の成果

○ 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。
○ いちごの品質が認められ、平成30年には国際線機内食にも採用。
○ いちご導入当時より利用者ができる作業が増え、収穫作業にも従事。
○ 農地面積が25a（平成30年度）から３ha（令和５年度）に増加。県内大手スーパーと直接取引を開始。
○ 就労継続支援B型事業所の利用者の平均工賃月額は取組当初の約25,000円（平成27年度）から約38,000円（令和５年度）に増加。生活介護利用者に対しても13,000円から15,000円を支給（令和５年度）。

所在地▶三重県松阪市八重田町31-6
連絡先▶TEL:0598-63-1551　E-mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp
ウェブサイト▶https://mukaiyaebell.or.jp/office/yaeda.html

【取組のプロセス】

荒廃農地の増加で農地の借入が可能になった

平成16年

きっかけ

利用者と屋外での作業がしたいという思いから、法人理事の農地等を借り、25aの農地からスタート

地域の理解により拠点を整備

隣町のいちご農家が減ってきており、空きハウスを借用

平成18年

いちご栽培を本格化

○ 離農したいちご農家から、ハウスを借り受けて栽培を開始。

○ 八重田町・隣町との交流（夕涼み会・収穫祭に参加）も始まる。

『農』のある暮らしづくり交付金（農林水産省）を受ける

平成20年

35ａのハウスでいちごを栽培

高齢化の波があり、近隣ハウスを借用し規模拡大

平成25年

いちごハウスの倍増

○ 地域農家にいちごの品質といちご栽培の技術が認められる。

○ 平成25年～令和５年にかけ４軒の農家のハウスを借入。

○ 収入はいちご栽培を始める前と比べ４倍以上となった。

○ 県内の医療少年院の在院実習生を受け入れて、さらなる農福連携への取組を強化。

平成26年

ヤマト財団「ステップアップ」助成金を受ける

令和2年

農産物の加工製造を開始

○ 衛生面に配慮できるメンバーにより、規格外のいちご等を使ってジャムを製造。

○ 地元業者との連携や、子供会の芋ほり用のさつまいもを無償で提供する等の地域貢献も行っている。

紅はるかを焼き芋にし、いちご、ブルーベリー、キウイと組み合わせた
こだわりジャム

いちごジャム作りをスタート

今後の展望

加工作業の強化

○ 色々な作物を出荷目的ではなく練習目的で栽培しており、生産性・採算性・作業性を考えて方針を決めようとしている段階。今後は農作業が苦手な人への職種の選択肢を増やすため、加工作業を強化していく。

ドライフルーツ
左：いちご、右：かき